

会 報

40 号



函館の歴史的風土を守る会会報

No.40 H4. 3. 1

発行所 函館の歴史的風土を守る会

事務局 函館市五稜郭町 4 3-9

五稜郭タワー株式会社内

電話 (0138) 51-4785

印刷所 双葉印刷 電話 53-7730番

2月7日、第14回函館の町並みを美しくする新春チャリティパーティーで歴風文化賞の贈呈式と原風景の宣言をしました

道南の原風景として「赤松街道のある国道」



赤松街道

宣 言 文

今日、函館から七飯へ至る国道5号線沿いの並木道は、安政3年(1856)後の箱館奉行、栗本安芸守が、北辺での自生を見ない赤松の種子を佐渡より取り寄せ、五稜郭で育苗したものを、明治5年(1872)札幌本道開削のみぎり、道路両側に植栽し、更に明治9年(1876)天皇がご来道の折、補植したとのことです。

爾来、130余年の風雪に耐えた1400本からなる並木は道内唯一の「赤松街道」として、道ゆく人々に安らぎと憩いを与え、開拓の歴史を語る見事な風景となっています。

昭和61年(1986)、同街道は日本の道、百選に選ばれました。この優れて美しい景観と歴史性こそ、道南の原風景に値するものとして、ここに宣言します。

実行委員長あいさつ

山 内 一 男

昨年はここ函館で、町並みや街づくりに関する大きなイベントが開催されました。一つは、10月5日に行われた「ウォーターフロントサミット」です。ボイリング・ウォーターというサブテーマを持ちまして、海・川・港などの水辺を、住んでいる人たちの心豊かな街づくりに生かすべく、いかに知恵を出して行くべきか討論されました。ともすれば港や海に背を向けがちな函館にとって意義深い交流でした。

もう一つは、10月25日から27日まで行われた「第9回ナショナル・トラスト全国大会」です。私は所属している建築家協会の全国大会出席のため参加できませんでしたが、英国ナショナルトラスト事務局次長のL・マックラケン氏の特別講演や、各団体の報告と全体討論が行われ、広範な内容に富み印象深い大会であったと聞いております。

有意義で明るいことがあった反面、心配事や残念な事もありました。

心配とは、旧茶屋邸を取り壊して新しい建物を建設するというニュースです。函館にとって望ましい発展・開発とはどうあるべきかを問う問題であったと考えます。少なくとも発展や開発の概念には、伝統や継承された文化を解体する行為とは相対立するんだということを言い添えて今後のよい進展を望む次第です。

そして残念な事は、旧渡島支庁舎、正式には旧北海道庁函館支庁舎の火災です。昭和53年4月に歴

風会が誕生をしましたが、その前年にこの建物の移転の話があり、署名運動や陳情の結果、現在地で復元保存へ至った経緯は皆様もご承知の事と思います。歴風会のシンボルである建物の火災は、痛恨の極みです。その後、行政の対応もすばやく、修復に向けて予算はもちろん、その作業に取り組んでおられるとお聞きしております。早く元の姿に戻ることができまうように願ってやみません。

さて今年は、どんな事が待ち受けているのか神のみぞ知るであります。しかし、チャリティのサブタイトル、旧函館支庁舎修復資金のために皆様と一緒に今年ががんばらなければと考えます。

私は十字街の銀座通りに祖父が営んでいたホテルで生まれました。谷地頭の祖父の家で小さい時おもしろい遊びました。高田屋嘉兵衛の像を見ると祖父の事を思い出します。祖父は富山の商人ですが、私に函館の大正時代や昭和初期の事をよく話し、栄光の函館の歴史を語ってくれました。私が函館にこだわるのは、祖父の語りかけが体にしみついたのだらうと考えます。

文化や伝統を継承してすばらしい街をつくることは、別な意味で人間をつくり育てることだと思えます。そういう人達が函館に満ちあふれることを願い、そういう人達との新たな出会いとふれあいを大切にしていきたいと考えます。

(新日本建築家協会会員 歴風会運営委員)

第9回歴風文化賞

保存建築物 3件 再生保存建築物 1件



〈保存建築物〉

← 奥島邸

函館市大町1-4

奥島俊夫様

この建物は、大正5年に建築され、上下和洋折衷様式が多いこの地区の中で、昭和43年の十勝沖地震にも耐え、蔵をもつ純和風住宅は、西部の歴史的な町並みに潤いを与えています。

長年に亘る保存へのご努力に謹んで敬意を表します。

〈保存建築物〉

ひろ寿司 →

函館市大縄町14-14

高田豊太郎様

この建物は、昭和4年店舗兼住宅として建てられた。当時としては珍しい、バナナや種イモ等を取り扱う貿易商家であった。大火と空襲で焼け残った大縄町は、昭和初期の建物が多数現存しているが、西部地区に見られる上下和洋折衷様式を取り入れ往時の雰囲気をも十分に残した現建物は、この地区の町並みに潤いを与えています。長年に亘る保存へのご努力に、謹んで敬意を表します。



〈保存建築物〉

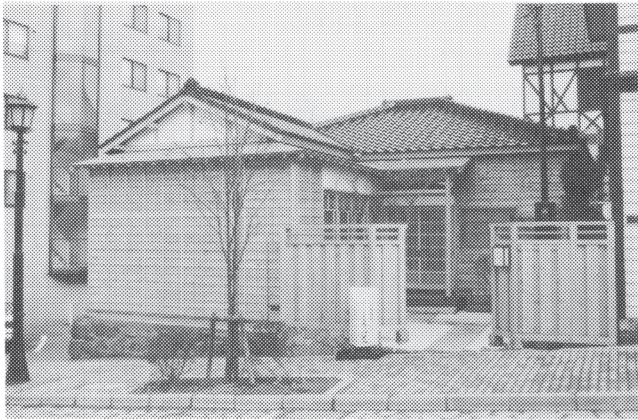
← 永野邸

函館市弥生町21-10

永野弥三雄様

明治から大正の初期にかけ、函館が海運や北洋で隆盛をきわめていた頃、蔵を持つ町家が多く建てられた。永野邸は明治14年創建のものを明治40年大火罹災後再建、昭和9年の大火には焼失を免れたが、その直後に現在の建物に建て替えられた。1階部分に海産商の函館出先事務所を有し、裏側には創建当時の蔵がそのまま残っている。現在は1・2階とも居住用に使用されており、この地区の町並みに潤いを与えています。長年に亘る保存へのご努力に謹んで敬意を表します。





〈再生保存建築物〉
← 会席茶屋 うつ木

函館市元町30-7

(有) 日昇商事様

この建物は、大正15年に純和風住宅として建てられ、昨年までほとんど手を加えられる事もなく、住居として使用されていた。この度、会席茶屋として用途変更されたが、外観は創建当時を忠実に再生されました。大三坂に面し歴史的町並み保存の推進に与えた影響は大きく、その努力に謹んで敬意を表します。

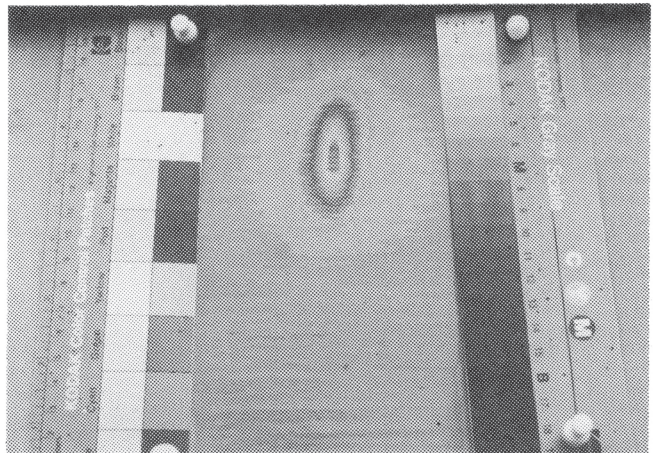
歴史的風土形成に寄与した団体として 元町倶楽部・函館の色彩文化を考える会

同会は昭和63年以来、既存の元町倶楽部の中の研究グループとして結成されました。

函館の歴史的な建造物の下見坂のペンキ色彩という歴史的特性を踏まえたものですが、これまでに市内85件を研究対象としたほか、国内、さらには海外のまちでも研究活動を展開するなど、精力的な活動を続けています。

“こすり出し”という平易で獨創的な手法から得られた色の年輪は「時層色環（じそうしきかん）」と名づけられ、内外の関心と呼ぶところとなりました。

研究活動に関連して、これまで研究報告会、シンポジウム、ワークショップや展示会と、楽しく多彩な行事を開催し、現在の歴史的環境に対する関心を高め、これからのまちづくりに対する市民的な関心呼び起こし、まちの歴史を市民の身近なものとしてくれました。このような、皆さんの活動に、心から敬意を表します。



時層色環

歴風文化賞をうけて

—— 街 と 家 ——

永 野 弥三雄

この度の受賞に際しましては、勤務先（浜松市）の関係上、長期に不在でしたので建物に就いての説明も不十分でした。それで若干の補足をさせていただきます。

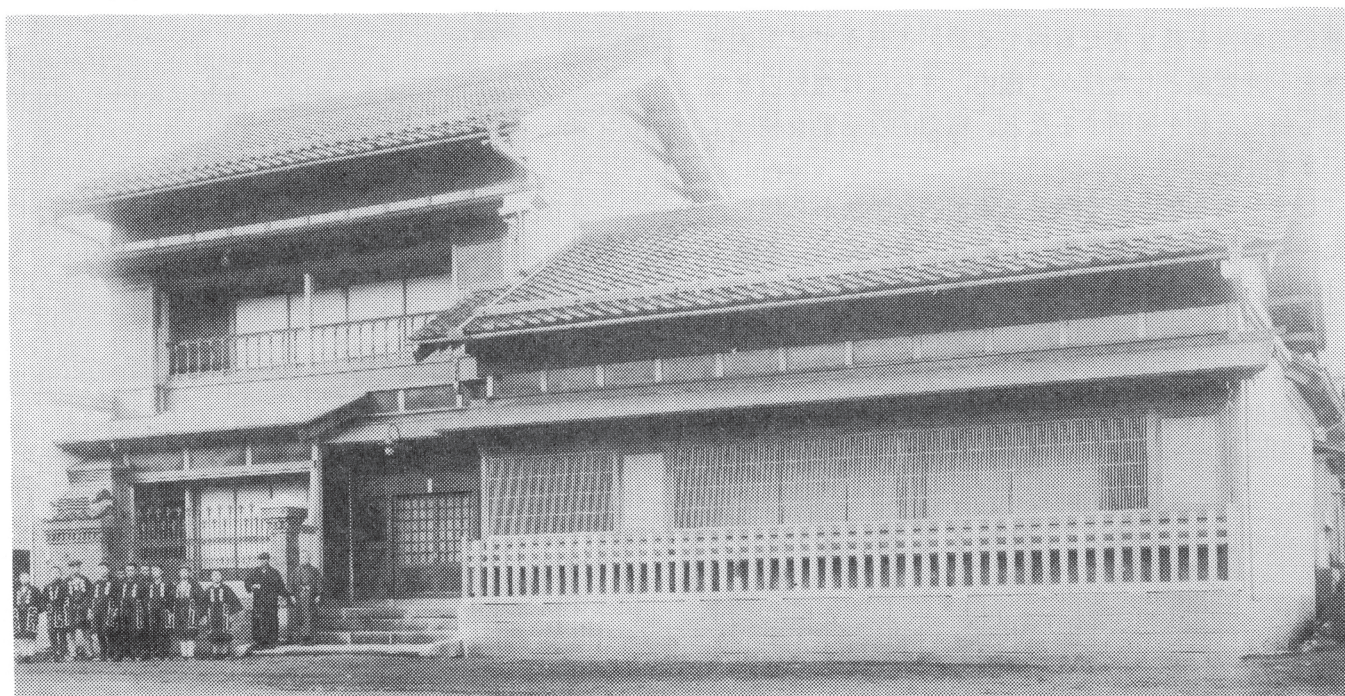
明治14年に建築したのは、私の祖父永野弥平（天保3年生まれ）ですが、50才の時です。明治14年11月4日付けの函館新聞に「拙者儀是迄西川街11番地に居住罷在候処這回鍛冶町57番地（現在の弥生町21番地）へ移転仕候間此旨知己の諸君に廣告す ㊥ 永野彌兵衛」と広告を出しています。ところで、祖父は海産商でも貿易商でもなく、船乗り（バイ船＝北前船）出身ですが、当時のロシア領サガレン島のナヨロ（現在のポロナISK）海浜でサケ・マス建網漁業を営んでいました。漁場をはじめたのは幕末ですが、明治8年の樺太・千島交換条約で樺太がロシア領となってからは、函館税関の検査を経て開港場の函館から出漁する形式をとり、これが明治36年まで続きました。江戸時代より函館とのかかわりの深い樺太の漁業に就いては、平成2年発行の函館市史通説編第2巻第4節露領漁業の進展に書いてあります。祖父弥兵衛は故郷である能登半島の風無村から出漁のために毎年函館へ来るのですが、函館の寄留先は弁天町、鱈瀬町、梅ヶ枝町、相生町そして西川町と移りかわり、漸く明治14年に現在地に自

分の家を建てました。この年はナヨロに建網を5ヶ続おろし、サケ・マス約4千石、金額で約3万5千円の収穫高でした。この前年の13年には西浜町の島野造船所で西洋形帆船環運丸を建造しています。漁業と海運業が函館の産業の基礎にあったのです。当時の文書には漁民と漁業家とを区別していますが、自分の家を建てるようになったから漁業家と呼ばれたのかも知れません。日本の資本主義がスタートしたのもこの時期なのです。

当時の鍛冶町は富岡町に続く通りで弥生坂より台町に至るまでです。町巾は広く、往来も盛んでした。商船学校は弥生坂よりこの町に入る左角に、幸小学校は幸坂の角、第一消防番屋はこの家の向い角、新旧両見番は常盤坂に、勝見屋などの有名な料理店が軒を並べていました。漁場を切揚げてからの賑わいがこの辺で展開されたのです。

明治14年から既に百余年たちました。大火や漁場の統合があって建物は建て替えましたが、基礎の石組や土蔵は昔のままです。孫の私は、函館市史の編集員に加わって、明治末期から昭和20年までの産業部門を目下担当しています。

（浜松大学教授）



明治40年の大火後に建てられた、支配人とあんこ達
（棟梁は山重こと山本重吉氏）

＝ 第14回町並みチャリティーは 旧渡島支庁々舎復元のためとなりました ＝



北海道新聞社提供

函館市に対し50万円を会として寄付をしました。なお札幌在住の宗像雄三さんから修復費1万円がよせられましたので、同じく会長より市へ手渡されました。

宗像さんは、昨年12月28日、道新「読者の声」に、―旧函館支庁庁舎の焼失に思わず涙―と題し、ご投稿くださった方です。

50万はチャリティーご賛同の各商社、ご参加の皆さん、その他、多くの方々のご厚志によるものです。神戸の角本稔さんから、復元のためにと5万円のご寄附をいただきました。

角本さんは昨秋「全国ウォーターフロント・サミット」の折、会を代表して函館大会へ出席なされた方です。

木戸浦函館市長より お礼のことは

昨年12月15日の火災により内部を焼失いたしました旧北海道庁函館支庁庁舎の復元のため、多大なご寄付を賜り、厚くお礼申し上げます。

市といたしましても、復元に向け鋭意取り組んでいる所でございますが、早急に復元できるよう努力してまいる所存でございますので、今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます次第でございます。

さて、皆様方もご承知のこととは存じますが、このパーティーを主催されております「函館の歴史的風土を守る会」は、昭和52年、只今、ご寄付をいただき復元しようとしております「旧北海道庁函館支庁庁舎」が、札幌の北海道開拓の村へ移転の問題が起こったことを契機に昭和53年に創立されたものでございます。

それ以来「函館の歴史的風土を守る会」の目的でございます、函館の歴史的風土を学び、理解し、これを守りながら、豊かなまちづくりの輪を広げるために各種事業を実施し、一方でその益金による寄付活動を続けておられます。

昨年10月には「全国ナショナル・トラスト大会」を見事に成功させ、全国的に高い評価を受けるとともに、当市・市民の啓発に大きな役割を果たされております。

また、昨年の8月28日には「西部地区の歴史的景観地域の町並み保全推進」のため、当市に100万円のご寄付を賜るなど、歴史的環境の保全に真摯に取

り組まれておりますことに対し、深甚なる敬意と謝意を表する次第でございます。

西部地区の歴史的景観の保全は、単に観光資源ばかりではなく、市民相互の連帯感を強め、市民生活に活力と潤いをもたらすものとして、市民の関心が高まっております。

また、私どもも、当市発祥の地であります西部地区の歴史的景観を保全するため、昭和63年に「函館市西部地区歴史的景観条例」を制定し、保全のための諸施策に取り組んでいるところでございますが、昨年建設省が中心となって創設されました「都市景観大賞」に当地区が選ばれました。

これは、先人の努力によって築かれた歴史的景観を市民の共有する貴重な財産として市民と行政が一体となって大切にしている姿勢が、このように全国的な評価をいただいたものと私どもも誇りに思っている次第でございます。

私どもは、今日お集まりの皆様方のご協力を得ながら、さらに市民意識の高揚、そして啓発・啓蒙に努め、町並み保全に関する基金制度の創設に向け努力をしてまいりたいと存じます。

終わりに、皆様方のご健勝と「函館の歴史的風土を守る会」のますますのご発展を祈念し、お礼のごあいさついたします。

平成4年2月7日 函館市長 木戸浦 隆 一

木肌のぬくもり

～鎌倉・御成小改築問題の10年間～

永 野 征 男

この1月、鎌倉から函館を訪れた私は、谷地頭小の保存活用の運動に活躍される方々に暖かく迎えられた。木造校舎の保存を、市民側から提言する難しさを体感してきた同志として、また行政が地域文化の継承にもっと理解してくれることを願う者としても、山懐ろに建つ同じような景観の鎌倉の例を紹介したい。

改築計画の異常さ

昭和8年創立の御成小は、旧鎌倉御用邸の跡に建てられた県内最古の現役木造校舎である。市庁舎の建設で校地は削られたが、校庭につづく「歴史的風土特別保存地区」の緑り豊かな御成山は、独特の教育環境を育んできた。京都御所を模した講堂や、校舎正面の素晴らしい建築様式から、日本建築学会も異例の保存を市長へ提言した。しかし、全国的な鉄筋化のさなか、ここでも昭和58年から着々と改築計画が進行した。当初、現在の位置で木造を望んでいた教師はある時から豹変し、ときには改築に異論を唱える母親を校舎内に長時間軟禁して市民運動化を糾弾した。

この改築が奇異なのは、60年間慣れ親しんだ学校の配置を、ためらいもなく一方的に当局が変更したことである。そして計画の基本段階でクレームのつくことを嫌った市教委は、現在の校舎側へ建てられない理由に地下の埋蔵文化財を利用した。

中世史を書き換える遺構の発見

昭和58年、校地数カ所の試掘をした市教委は、故意に事実と違う発表をした。それは「現校舎下から重要な遺跡の存在が確認された。しかし校庭は大した遺跡がない。だから新築場所は校庭側にする」とのもっともらしい解説だった。

しかし、図面の完成後に校庭側の本調査をしたところ、貴重な中世の高級武家屋敷跡が出土し、さらに下層からは古代の巨大な建物の柱根が多数発見された。中世都市の鎌倉は、頼朝が京都を模したとの学説を完全に否定する遺構であった。頼朝以前は、人も住まない荒地と記した『吾妻鏡』の誤記・誇張がはっきりと証明された。そして柱根の配列から復元できる建造物は、明らかに古代の鎌倉郡衙に間違いなく、のちに年号記載の「木簡」が発見されてからは全国的に注目された。一部の教科書は、頼朝開府前から古代都市があった事実を記載した。

それから4年間、3000万円の校舎設計図は宙に浮き、設計業者はなぜか解散してしまった。3年前、市当局は理由もつけずに現校舎側に新築する、180度変更の素案を示した。重要な埋蔵文化財があるから建築できない、その場所に建るといい始めた鎌倉市。そして、

昨年春には6000万円の新設計図を発注した。この間、発掘に2億円を使ったが、一度も市民に遺跡を公表しなかった。その一方で発掘した学者は、学会で個人の業績として発表し、商業出版物にも特集される異常さであった。

木造建築物の復権

地下の遺構は地表からわずか数メートルの深さである。これを破壊せずに全面保存するには軽い建物しかない。つまり、木造校舎を乗せることが最良の策である。この問題が起きた60年代前半は、全国的に大規模木造に対する再評価のムードが高まっていた。確かに国内の間伐材の利用促進などもあったが、それ以上に、かつての鉄筋神話が崩れはじめた時期でもあった。文部省は木材の活用を奨励し、これまでの鉄筋校舎への補助金と同額を木造にも適用した。そして木造の耐震・耐火は、今日の材質や加工技術の飛躍的な進歩が克服していた。また、市民の要望で貴重な木造校舎の修復保全が各地で増加した。しかし、木造新築のあるものは地場産業との絡みで紹介されたために、都会では困難というような発言も多々みられた。当然、鉄筋化が早く進んだ都市部では、木造から木造への改築例が残らなかった。決して都会の学校が木造を無視したのではなかった。

これまでの市民運動は行政への確固たる反論をもたなかった。しかし、運動の長期化が次第に専門家を囲む手作りシンポに発展し、学習の場をもたない行政側との知識格差は広がってきた。御成小問題はこれから何年続くのか私にも分からない。しかし、行政施策の曖昧さを許さない市民の信念は、一向に衰えることがないであろう。

（日本大学教授・都市地理学）



御成小学校 吉田桂二氏画く

「ふるさととは遠きにありて」

宮城県とめの明治村・登米

熊谷 富子

どうゆう風の吹きまわしか、このところしばしば、わたくしの故里である宮城県の登米町がマスコミで報道され、そのため全国各地から多くの人々が訪れるようになったと聞いています。

わたしの故里は、満々と水をたたえる北上川、四季折々に美しい姿をみせてくれる北上高地に沿った1200年の歴史を刻む静かな街です。そこには、伊達家一門の城下町のなごりを留める鍵形の道路やひっそりと軒を連ねる武家屋敷、舟運が栄えた往時の面影を今に伝える白壁の商家、それに何と云っても文明開化のロマンたどようモダンな洋館などがバランスよく現存している所です。

言わば、町ぐるみが文化財であり、伝統芸能も含めた文化の香ただよう風土なのです。

とりわけ思い出深いのは、明治21年に建てられた旧登米高等尋常小学校であります。

白いバルコニーがシンボルとなっているコの字型の洋風建築であり、その校舎を舞台に私の父も母もそして兄弟姉妹全員が遊びかつ学んだまぎれもなき共通のルーツなのです。100有余年の星霜に耐えた赤レンガ造りの校門とポーチのある校舎は、国の重要文化財となっています。丁度、指定される頃、実兄が町議会の議



旧登米高等尋常小学校前（国指定重要文化財）で筆者

長として関与したこともあって、一層印象深く心に焼き付いているのです。

故里との別れは、地元の高等学校卒業の時であり、あれから倍以上の歳月が流れた今、来し方をふり返ってみると、故里は、折にふれ心の支えとなってくれました。

「ふるさととは遠きにありて思ふもの・・・」であると同時に「・・・ふるさとの山はありがたきかな」と云う心境です。

激動の昭和から平成の世となり、これまでの金銭万能、経済至上主義のバブルがはじけ、これまで忘れかけていた心豊かで文化を大切にすることが価値ありとする時代がやっと到来しつつある昨今、これからは、函館の一市民として、函館の歴史が育んだ文化に着目し、函館ならではの文化財を守り、子々孫々に伝え

るために、私流に微力を尽くしたいものと思っています。函館は私の子ども、そして孫達にとってはかけがえのない故里です。世界にはばたく若い世代のために、文化的な風土づくりの草の根活動を末ながくつづけたいものです。

母が学んだはざま迫町佐沼小学校

木戸 巻子

明治5年開校の佐沼小学校は私の両親はじめ大勢の身内が学んだ所です。位置は北上川に合流する迫川と江戸時代からの鹿ヶ城跡地（現在佐沼町公園）を背景にし、国の重要文化財・登米小学校から県道沿いで6キロ離れた所にあります。明治29年生まれの今は亡き母の話ですが、当時、迫町の学校教育の取り組みは宮城県下でも有数で、その象徴が群を抜く立派な校舎であった様です。母の生家が小学校の後にあり、よく学校の様子が見えたとか、近郷からの生徒の為に（高等科・別科）寄宿舎もあったよし。冬季、子供達はツマゴ（雪靴）をはいて通い、下校時にも乾いたツマゴで家路につきたいため、母の家の大きな炉端は乾かすいとまも惜しむ向学心に燃えた生徒で占められ

ていたと……鹿ヶ城の若様が学校に通うのにお供が常に教室の隅で授業が終わるまで待ち、お供は待つ間に自らも学び、後に名高い校長先生になられたとの話もききました。私の子供の頃、丁度家業が忙しいこともあり、殆ど母の実家で過ごしました。従姉妹や近所の友達と校庭でワイワイ遊んだ懐かしい思い出が沢山あります。校舎は木造二階建・校内の隅々までピカピカでした。廊下の手すりは大変立派なつくりでした。

しかし、時代が変わり立派な木造校舎は近代的なものに建て替えられました。新校舎は新校舎なりに素晴らしいものですが、せめて古い校舎の一部でも歴史の証しとして残してくれていたなら……と、残念でなりません。

＝旧茶屋邸（末広町14）ニュース＝

平成2年以來くすぶり続けてきた伝統的建造物「旧茶屋邸」問題は、昭和63年施行の函館西部地区景観条例を形骸化させかねない危惧をはらんでいましたが、この度（2月13日）部分解体も含め、所有者・井見開発会社（札幌市）からのホテル計画案が了承され、

一件落着のはこびとなりました。

町並み保存でいうところの保存とは一体何を残し、何を次代に継承させるのでしょうか……？ 今回の総括が将来に亘り歴史の批判に充分に堪えうるものであってほしいと思います。審議委員の皆さん、長期間ご苦労様でした。（文責 田尻）

＝ちんちん電車を走らせよう会ニュース＝

(1) 多くの方々のご協力で、当会として日本最古の電車ユキ2号復元のために市へ580万円の指定寄附をすることができました。函館市では平成4年・5年度に計3,600万円の予算を以て「レトロ電車」出発進行となりました。真に喜びに堪えません。改めて皆さまへお礼を申し上げます。私共の会は引き続きナショナル・トラスト方式でユキ2号の動態保存へむけ

て運行経費の負担等も考えております。今後とも温いご支援をいただきたいと思います。

(2) 函館における電車さきがけの歴史をもつ「しのめ」線が諸般の事情により残念ながら3月31日で廃止となります。当日（3月31日）当会主催で＝さよなら、しのめ線＝の催しをします。カラオケ電車なども考えています。くわしくは交通局駒場車庫、ちんちん電車を走らせよう会、電話52-1273までお願いします。皆さんのご参加を待っています。

チャリティパーティに御協力商社（順不同）

棒二森屋・今井・函館西武・函館ダイエー・魚長食品・函館山ロープウェイ・イトーヨーカドー・長崎屋
函館魚市場・五稜郭タワー・第一食品・さいか・サッポロウエシマコーヒー・文雅堂・カメラのたねざわ・
太田比古象・おしゃれ館・ユニークショップつしま・五島軒・かもめの水兵さん・平方亮三・割烹中井・テ
ーオー小笠原・アトリエ異流・BAYはこだて・函館ビヤホール・花ホテル・はこだてわいん・不二屋本店
マルミヤ宮下商店・三和印刷・小田島水産食品・宮腰印房

なお、当日、永野弥三雄先生外、多くの方々により過分なる御志をちょうだいしました。各商社ならびに皆様へ心より御礼申し上げます。豊山先生、心温まる電報ありがとうございます！ 日本舞踊の対馬栄子さん、音楽演奏の「ディザイアー」の皆さん、楽しいひとときをすごささせていただきました。感謝しています。

事務局だより……………

☆2月7日、第14回函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティーを五島軒本店で開催。300余名の市民のご参加を得て盛況裡に終了しました。この席上、旧北海道函館支庁庁舎の復元資金とし金50万円を市へ寄附をしました。山内一男実行委員長、渡辺友子副実行委員長、実行委員の皆さんご苦労さまでした。

☆2月16日、神戸港を考える会代表角本稔さんが旧道庁函館支庁庁舎の復元のために5万円を当会に送って下さいました。市へ寄附させていただきます。神戸の皆さんありがとうございます。

☆2月18日、旧北海道庁函館支庁庁舎の復元を支援するため当会が呼びかけ人となり、函館西部地域まちづくり推進協議会、元町倶楽部、西部アンティークユニオン、函館のナショナル・トラストを語る会の各代表にお集まりいただき会議をもちま

した。協議の結果、趣旨に賛同くださり早速、復元支援と町並み基金づくりと併せ活動することとなりました。事業とうの細部につきましてはおってお知らせします。その節は会員の皆さんの御協力をお願い致します。

…会費納入のお願い…

会費未納の方、よろしくお願ひします。

郵便振替－函館630

又は、拓銀昭和支店 026-293-407

宛先は、函館の歴史的風土を守る会

住所は、千代台町20-18

編集後記 ご多忙の中、玉稿をお寄せ下さいました執筆者の皆様へ心より御礼申し上げます。第15回全国町並みゼミが5月30日から3日間、福岡県吉井町で開かれます。参加希望者を待っています。秋月方面へのツアーもあります。（田尻）